



ドクターTのひとりごと その50

少子高齢化 人口減少社会を考える

私が幼い頃は^{かまど}竈でお米を炊き井戸水をくみ、また、洗濯機、冷蔵庫などは無く不便な生活をしていました。コンビニやスーパーは無く、生活に必要な最低限の物資しか手に入らなかった。医療環境も不十分で、ほとんどの人は自宅で亡くなり、お葬式はセシモニーホールが無いので、近所の人々が総出で助け合いながら自宅で行っていた。今から思うと極めて不便な時代であったが、地域住民が助け合いながら、目標を持ち頑張っていたと記憶している。親たちは自分を犠牲にしながら子どもを必死に育て大変苦労したと思うが、子ども達は不便とも、ましてや不幸だとは全く思わず、親には心底感謝していた。

助け合わなければ一人では生きて行けない時代であった。

日本の第一次ベビーブームの1947年～1949年に生まれた世代は程度の差はあっても、このような体験をしている人たちである。このベビーブームの3年間の年間出生数は260万人を超えていて、2015年の推定年間出生数100万人と比較すると極めて多い事が分かる。

今、日本では世界でも類を見ない少子化、超高齢化、人口減少社会を迎えている。家庭では電化製品に溢れ、生活に不自由は無く、コンビニや宅配便を活用した買い物など、若者の一人暮らしが可能である。また、大都会は別として、地方では待機児童はなく、介護施設もそれなりに整っていて、昔と比較すれば極めて生活しやすいと思う。一方、終戦(1945年)後の激動の時代は仕事も無く、社会保障制度も不十分であったが、多くの子どもが生まれた。経済成長で生活が便利になればなる程、少子高齢化、人口減少が進展するのはなぜなのか、昔を振り返り、今一度考える必要がある。



図書館だより

今月のおすすめ本

ロシア日記 - シベリア鉄道に乗って 高山なおみ

武田百合子の「犬が星見た - ロシア旅行」に引かれて旅に出た著者が、料理家、文筆家として活躍中の感性で、目にした風景、食、人との出会いなどをつづった記録です。続編「ウズベキスタン日記 - 空想料理の故郷へ」も所蔵しています。(東)



若冲への招待 朝日新聞出版

今年で生誕300年を迎える画家の伊藤若冲。全国でさまざまなイベントが行われ、大盛況です。迫力ある鶏の絵が有名ですが、なぜ鶏を数多く描いたのか? そんな素朴な疑問に答えながら若冲の一生と作品に迫ります。美術館に行く前に入門書として読むもよし、本書のパーフェクト鑑賞講座で展覧会気分を味わうもよし。(西)



▶詳しくは、東図書館(☎62・0190) 西図書館(☎75・5406)へ。

あそびあむ あそびの PICK UP vol.3

「つみすぎ」

「つみすぎ」は、箱をより高く積み上げたときの達成感が、なんだかうれしいあそびです。

- ①箱を積む
- ②協力してひたすら高く積み上げる
- ③崩れるまでチャレンジする



▲協力して高く積み上げよう



▲大人もついつい真剣に

どうやったら高く積めるか考えることで、集中力や微妙な力加減、バランス感覚などが育ちます。また、親子や友達と協力し合うことでコミュニケーション能力も培われます。

大人が真剣に積んでいる姿は、見ている私たちも、ほほ笑ましくなります。共感しながら遊ぶって楽しいですね! いろいろな楽しい要素を持ち、子どもも大人も夢中になれる「つみすぎ」。ぜひ、チャレンジしてみてください。《子育て交流施設 あそびあむ》

—子ども・おとな ドキドキ・わくわく—

※あそびは随時入れ替わります。平日は制限しているプログラムもあり。

子ども同士から引き合っていますか?

子ども同士の人権問題は、大人たちの目に付きにくいところできちんと起きていることが多く、被害者である子ども自身にSOSを発信する力が備わっていないことや加害者である子ども自身も欲求不満のはけ口くらいにとらえ、深刻な結果に至って初めて明らかになるという例が少なくありません。

最近の子どもの「いじめ」は、執拗で陰湿なケースが増えており、行為がエスカレートしていく傾向にあります。いじめから自殺や殺傷事件などに至る場合もあり、重大な人権侵害であるという認識が必要です。

8月下旬には埼玉県河川敷で16歳の少年が遺体で発見されるという事件があり、知人の少年5人が殺人容疑で逮捕されました。少年たちは、彼がうそをついたことやメールや電話を無視したことを理由に集団で殴る蹴るの暴行を加えたと供述しています。また、2学期の始業式前後には、青森県で中1の男子生徒、中2の女子生徒が相次いで自殺をしたという報道がありました。いずれも次のような遺書と思われるものを残しています。

「いじめがなければもっと生きていたのに、さんねん」、「もう生きていけそうにないです。いじめてきたやつら、自分で分かると思います。二度としないでください」

いじめが起る背景には家庭、学校、地域、社会などに内在するさまざまな要因が複雑に絡み合っていることから、問題の解決はそれぞれの立場での取り組みが求められています。まずは一番基本となる家庭において子どもとの関わり方を一度見つめ直してみることも必要ではないでしょうか。

家族は、子どもが初めて属する集団です。家庭の中で振る舞いや言葉を覚え、一定の価値観を身に付け、それをういて社会で生きていくことになり、親の考え方や家庭環境がその後の子どもの生き方に重要な影響を及ぼします。

皆さんのご家庭では、子どもとの日々のコミュニケーションを図っていますか。態度や様子の変化に気づいていますか。日々の忙しさに逃げることなく、真正面から子どもと向き合っていますか。子どもは、大人が思っている以上にデリケートで傷つきやすいのです。どうか小さな変化を見逃さないでください。親は子どもの最良の理解者であるとともに、その人格形成において最も身近な助言・指導者なのです。《人権啓発推進室》



防災Q&A

津波は速い!!

津波は非常に速いスピードで襲ってきます。陸を目の前にした海岸付近(水深約10m)での津波の速度はどれくらいでしょう。①歩く速さ(時速約4km/h) ②陸上選手の走る速さ(時速約36km/h) ③新幹線の速さ(時速約250km/h)

津波のスピードは海の深さと関係があり、下の図のとおり深い所では非常に速い速度で伝わります。海岸が近付いても水深50mで高速道路を走る自動車の速さ、水深10mでも、100m走を10秒で走る陸上選手の速さと、一般の人が軽々追い抜かれる速度で襲ってきます。大きな地震の揺れを感じたり、津波警報、注意報の発表を聞いた時、津波が見える前に高台へ避難するようにしましょう。

正解は②



(画像出典:気象庁「津波発生と伝播の仕組み」を加工)

《危機管理・防災課》



秋・冬に旬を迎えるサトイモと、秋から冬にかけて黄色く色づくユズで季節を感じる味噌田楽を作りました。サトイモの一種で、舞鶴でも生産している京のブランド産品「えびいも」を使うとより一層おいしくいただけます 【協力】 谷口久美子(食生活指導士)

材料(4人分) ◆サトイモ…400g ◆塩…少々 ◆ユズ…小1個

- A ◆水…150ml ◆白だし…大さじ1 ◆みりん…大さじ1 ◆みそ…大さじ2 ◆さとう…大さじ3
- B ◆だし汁…大さじ2 ◆酒…大さじ2 ◆柚子皮(おろし)…小さじ4分の1

一言メモ

山地に生えているヤマイモに対し、里で栽培することからサトイモと呼ばれ、茎はズイキとして食べられます。

ゆずみそでんがく 里芋の柚子味噌田楽



1人分 143kcal 塩分2.5g

作り方

- ①サトイモは皮をむき、ひと口大に切り、塩水で茹で、洗ってぬめりをとる。
- ②鍋にAを入れサトイモを加え、中火で形がくずれない程度の柔らかさに煮て火を切り、そのまま置いて味を染み込ませる。
- ③Bを小なべに入れて中火にかけ、へうでよく練りながら焦がさないようにとろみをつけて柚子味噌をつくる。
- ④②を器に盛り、③をかけてユズの皮を飾る。